

PTA 全国大会 新潟大会に参加して

富士市 PTA 連絡協議会

副会長 清 淳也

8月24日(金)、25(土)にてPTA全国大会新潟大会に出席してまいりました。

今年は記録的な猛暑の年で、24日もダブル台風が日本列島を通過中の移動となりましたが、幸いにも新潟は台風の影響をさほど受けませんでした。

第一日目の24日は、新潟の各地で分科会が行われました。

いつもは各メンバーがバラバラになり、各分科会に行くのですが、新潟の場合には各会場が広範囲に散在しており、二日目の全体会に一度に集合することが困難でした。そのため今回はメンバー全員で、新潟田市で行った特別第1分科会に行つてまいりました。

特別第1分科会での研究課題は「いじめ」でした。いじめというものを見逃さないためにできることについて話されました。

実際にいじめというものがどのように生じているのか、また、それは誰にでも起こりうるものであり、誰にでも犯しうるものであることを知りました。

そして私にとって最も衝撃だったことは、いじめられている子供は、親や先生に決して言わないことでした。嘘をついてでも隠し通すということでした。死ぬほどに辛いことなのに、自分がいじめを受けていることを誰にも言わずに、家では明るく振る舞ったりして、いじめを受けていることを知られないようにする傾向があることを知りました。私は、自分の心の中にグサリとやりで突かれたような衝撃を受けました。

いじめを受けている子供は、「たがらない兆候」という兆候が現れてくるそうです。「言いたがらない」「聞きたがらない」等の兆候にいち早く気づき、僕たち大人が子供の小さな変化を感じ取るにはどうしたらよいか。被害者だけでなく加害者・傍観者を含む全ての当事者からの声を僕たち大人が敏感に感じ取ることは、いじめの根幹を理解する上でとても重要であると思いました。

富士市でいじめがなくなりにするには、先生、保護者、そして現代では地域の方々も含めて、お互いに協力して一体となりいじめの芽を摘んで行く必要があると思いました。

第二日目は、長岡市で全大会が行われました。小雨が降りそうな気配の天気でしたが、駅から会場までは直通的な連絡通路があり、天気の心配をせず会場に行くことができました。

新潟大会のスローガンは、「教育は未来を拓く 新潟発 米百俵の精神！」です。

越後新潟は、「米百俵の精神」の地です。「百俵の米も、食べてしまえばたちまちなくなるが、教育にあてれば、明日の一万・百万俵となる」と藩士を論じ、救援米を売り、国漢学校を建て、故郷の未来を教育に託した小林虎三郎の想いを、全国から集うPTA会員と語らうことで、教育・子育ての意義を再確認するとともに、今後のPTA活動の意欲付けとすることが大会の趣旨でした。

全大会の記念講演は、新潟県三条市出身の俳優の高橋克実さんでした。今までの俳優人生を冗談を交えながら話して下さいました。

富士市のPTAを代表して、新潟大会で勉強させていただいたこと、特に私にとっては第一日目の「いじめ」をテーマにした分科会は大変印象あるものとなり、大変勉強させていただくことができました。ありがとうございました。